

稲荷山通信 第5号

今年度から『八王子市史研究』を刊行します！

『八王子市史研究』を刊行

市史編さん室では、平成28年度の八王子市市制100周年記念事業として、新たな市史の編さんを進めています。今回編さんする市史は、資料編は平成23年度から26年度までに6巻、本編は平成25年度から28年度までの間に8巻を順次刊行する計画です。

この市史編さん事業の一環として、本年度に『八王子市史研究』を創刊します。『八王子市史研究』は各時代や分野ごとに市史の調査・研究にあっている、「原始・古代」「中世」「近世」「近現代」「自然」「民俗」の6つの専門部会の調査・研究の成果となる論文等を発表する場として、また、市史編さん事業をご理解いただき、より広く市民のみなさまに成果を活用していただけるよう、編集していきます。

論文などの原稿を募集

『八王子市史研究』は、毎年一号ずつ発刊する予定で、市民のみなさまからも、八王子の歴史や自然に関する論文、調査報告などを投稿していただき、市民協働で、新たな市史を創りあげていきたいと考えています。

なお、詳しい投稿方法は、次ページの「市史研究の原稿を募集しています」に掲載しておりますので、皆さま奮ってご応募ください。

【目次】

今年度から『八王子市史研究』を刊行します！	1
市史研究の原稿を募集しています	2
<地域からの声> 八王子市檜原町 橋本岩雄さん	3
引退をむかえるオレンジ色の電車「201系」 コラム かわりゆく八王子の風景	3
各専門部会の主な活動状況	4
資料編「原始・古代」の刊行準備中 黒田智章	7
八王子市都市政策研究所が発足しました 三谷清人	8
よろしくお願ひします 市史編さん室職員の紹介	9
市史編さんのあゆみ	11
受贈図書・資料	11
歴史の窓 信太森の狐～西川古柳座の「世間話」～ 松尾あずさ	12

市史研究の原稿を募集しています

『八王子市史研究』創刊号 原稿募集要項

1. 原稿内容

市史編さん室では、今年度『八王子市史研究』を創刊するにあたり、創刊号に掲載するための原稿を、広く市民のみなさまから募集します。内容は八王子の歴史や自然に関する未発表の論文や調査報告など、下記(1)～(3)に該当する原稿が対象です。

- (1) 論文 過去の関係する研究成果を踏まえ、新しい見解が示されたもの。
- (2) 調査報告 自ら調査し、分析した成果を報告するもの。ただし、調査や研究活動そのものに関する記録などでも可とします。
- (3) その他 これまでの市史編さんや、八王子の歴史および自然に関する随想など。

2. 原稿枚数

論文 16,000字以内(400字詰原稿用紙に換算して40枚以内)
調査報告 8,000字以内(400字詰原稿用紙に換算して20枚以内)
その他 8,000字以内(400字詰原稿用紙に換算して20枚以内)

3. 投稿方法

投稿原稿はオリジナル原稿のほかコピーを2部添付してください。ワープロ原稿の場合は、USBメモリ等の電子データが入力された媒体(メディア)のほか、紙に打ち出した原稿を2部添付してください。

送付の際は、郵便番号、住所、氏名、電話番号、FAX番号、電子メールアドレスを明記の上、必ず書留で市史編さん室に送付してください。電子メールでの投稿は受け付けませんので、ご注意ください。また、送付いただいた書類は返却いたしませんので、応募される場合は必ずお手元に控えを残してください。

なお、応募される方は必ず事前に市史編さん室へ連絡してください。

4. 応募期限

平成22年9月29日(水)必着

5. 原稿審査

投稿原稿は、八王子市市史編集委員会の厳正な審査により、採否を決定します。審査にあたっては、『話題の妥当性』、『方法の適切さ』、『論理展開や結論の明確さ』、『八王子の歴史や自然研究との関係性』などを基準とします。

審査の結果により、原稿の修正をお願いする場合があります。採否の結果は審査終了後の10月下旬頃に、事務局からお知らせします。

6. 発行予定

平成23年3月

7. その他

『八王子市史研究』に投稿論文等が掲載された方には、掲載誌5冊を差し上げる予定です。

8. 原稿送付先・お問い合わせ先

八王子市総合政策部市史編さん室 〒193-0943 八王子市寺田町1455-3
電話 042-666-1511 FAX 042-666-1512

檜原町にある橋本岩雄さんのご自宅を訪問した。橋本さんは生まれ育った旧川口村および八王子市の職員として勤務する傍ら、若い頃から地域研究に熱心に取り組んできた。そのきっかけについて、橋本さんは「年配の人と話す機会が多かったからかな」と回想する。その中でも特に印象深い人物は、同じ檜原町の出身で「絹の道」の名付け親ともなった橋本義夫や、大正時代から地域文化運動の牽引役となり、橋本さんと同じく市の職員でもあった松井翠次郎といった人びとだという。青年時代の橋本さんは、八王子における文化的活動の中心となった人物たちと親交を深め、その後は彼らの晩年まで交流を持ち続けてきた。こうした交友関係を背景として、橋本さんの興味関心は、地域の文化、青年団、信仰など多岐に及んでいる。

市史編さんに何を望みますか？との問いに、橋本さんは「市史編さんに限らず、資料の発刊が必要ですよ」と強調する。「これは以前から考えていたことですが、過去に生まれた資料は、この先どこかで発見されることはあっても、今後新たに生み出されることはない訳です。しかも資料の活かし方は人それぞれに違いますから、市史編さんをきっかけに、市内の資料収集を進めて市民が見られるようになると良いと思います。経済的には厳しい時代ですが、八王子市が将来的に公文書館などを設置して、個人情報などの問題のない範囲で資料を公開するといった体制も、ぜひ整えていただきたいですね」と語る。

橋本さんは地域を研究対象としてきた経験から、たとえ一点の資料であっても、資料を守り伝えてきた家族や、地域の人びとにとっては大変価値があり、さまざまな場面で活用が可能であることを知っているのであろう。「よい市史をつくってくださいね！」との橋本さんの明るい声に背中を押され、ご自宅を後にした。



引退をむかえるオレンジ色の電車「201系」 コラム かわりゆく八王子の風景

JR中央線高尾駅のプラットフォームでは、高尾山信仰の象徴ともいえる大天狗が東方を睥睨（へいげい）している。この日はその隣に、晴れの日も雨の日も中央線を走り、大天狗のもとに乗客を運んできた「201系」と呼ばれるオレンジ色の電車が並んでいた。

この電車は昭和54年8月、環境にやさしい「省エネ電車」として登場した。おりしも、ノーネクタイ・ノー上着運動から「省エネルギー」へと、当時の大平内閣が夏場のスタイルを提案していたことにより、ネクタイ生産に比重を移していた八王子の織物業にも、その影響が懸念され始めた頃であった。

しかし中央線を駆け抜けてきたオレンジ色の電車にも、その引退のときは迫っている。こうして私たちが見ている「現在」は、瞬く間に「過去」となり、光の速さで過ぎ去ってゆくのである。

私たちは過去から学び、未来を創ることができる。よって、過去の出来事を客観的に見つけ、まちづくりに活かそうとする市史編さんとは、未来につながる仕事であるともいえよう。そしてまた現代史の一コマとして、オレンジ色の電車が走っていたことが、歴史に記録されてゆくのである。

(渡部恵一)



高尾駅に停車中の201系電車

(平成21年6月撮影)

写真提供 内田哲史氏

各専門部会の主な活動状況

<平成22年5月31日まで>

原始・古代部会(関 和彦部会長)

今後の予定 現在は、平成23年度に予定している資料編「原始・古代」の刊行に向けて、資料編で紹介する遺跡の選択、掲載する図版等の作成を行っています。今後は、部会委員等が分担し遺跡の紹介文を執筆するとともに、掲載する写真の選択などを行っていきます。資料編では、市内にある1,030か所の遺跡のうち、特に重要と考えられる約110か所の遺跡について、市内を流れる河川流域(谷地川・多摩川流域、浅川・川口川流域、湯殿川・山田川流域、大栗川流域の4流域)ごと、旧石器時代から奈良・平安時代までの時代区分ごとに分けて紹介する予定です。

資料編の刊行後は、平成25年度に予定している本編の刊行に向けた調査研究をすすめていきます。

主な課題 今回の資料編「原始・古代」では、市内の遺跡のうち、旧石器時代から奈良・平安時代までの遺跡を扱う予定です。鎌倉時代以降の遺跡については、他の時代区分の資料編で紹介していくことになるため、今後は他の専門部会と連携していくことが必要となってきます。

主な活動状況 平成22年2月～ 資料編掲載遺跡の選択、資料編掲載図版の作成、資料編執筆資料の作成 / 3月～ 市内北部遺跡等の実踏調査 / 4月～ 資料編執筆要項の検討、資料編執筆例の作成、資料編執筆分担の検討

中世部会(池上裕子部会長)

今後の予定 平成25年度の資料編「中世」刊行に向け、滝山城・八王子城主北条氏照関係文書、八王子市域に関係の深かった武蔵守護代大石氏の関係文書、及び八王子市域に所在している、地名や人物に関係する資料の調査を進めます。とくに市域に所在する資料については、所在の確認も含めて調べ、改めて写真撮影などの調査をする方針です。また、中世の痕跡がみられる地域を選び、8月には聞き取りを含めた集中調査を行う予定であります。今年度は谷地川流域を中心に滝山城下の復元を目標として、先行研究に学びながら調査をしたいと思っております。

主な課題 八王子市域に所在する中世資料の調査、市外に所在する八王子関係資料の調査、八王子の中世考古遺跡(遺構・遺物)に関する情報の整理及び調査が課題になっております。

主な活動状況 平成22年2月～ 大石氏関係資料の整理、八王子市域関係資料の整理 / 3月～ 他自治体史に掲載された八王子市域関係の資料の整理、由木地区の実踏調査及び資料調査 / 4月～ 中世古記録・軍記等の八王子市域に関係する記述の整理開始 / 5月～ 恩方地区の実踏調査及び資料調査

近世部会(藤田 覚部会長)

今後の予定 近世部会では、平成24年度と平成26年度に資料編「近世1」と「近世2」を、平成26年度と平成27年度に本編「近世(上)」と「近世(下)」を刊行する予定です。またその他に、市内所在の検地帳と村明細帳を集成し、資料編とは別の形で刊行することと、宗門人別帳に記載された情報を整理する作業に取り組むことを考えています。

主な課題 資料編「近世1」の刊行に向けて、現在は郷土資料館にある史料(古文書)の内容調査を行っています。また市内に残されている史料の所在調査や、周辺の自治体史などの八王子関係記述の調査も進めています。今後は市内の史料調査をいっそう進めると共に、八王子と関わりの深い、例えば山梨方面等の市外にある史料の調査や、地誌・紀行文の調査なども行いたいと考えています。また調査及び整理を行った史料のマイクロフィルム撮影や、筆耕なども進めます。

主な活動情況 平成22年2月～ 由木地区の所蔵者よりお借りした史料の整理及び調査 / 江戸東京博物館「石井良助コレクション」調査 / 村明細帳情報入力作業 / 3月～ 八王子市郷土資料館収蔵史料調査 / 由木地区史料所在調査 / 4月～ 他自治体史における八王子関係記述の抽出作業(三多摩の自治体史を分析し、八王子に関係する史料などを抜き出す作業) / 八王子市郷土資料館収蔵史料の撮影作業 / 5月～ 由木地区の所蔵者よりお借りした史料の調査・分析

近現代部会(新井勝紘部会長)

今後の予定 近現代部会は、平成23年度と平成25年度に資料編「近現代1」と「近現代2」を、平成27年度と平成28年度に本編「近現代(上)」と「近現代(下)」を刊行する予定です。また現在整理をすすめている橋本義夫氏の関係資料も、目録や調査報告書などにまとめたいと考えています。

主な課題 現在は資料編「近現代1」の刊行に向け、八王子市及び合併した各町村の公文書の調査をすすめています。そのほかに、八王子市議会史編さんの際に収集された東京都公文書館の資料なども調査しています。これらの調査をもとに、平成22年度中に資料編「近現代1」の目次・章立てを決め、掲載資料の選択を終える予定です。

今後は、長年、八王子で地域の歴史(特に近現代史)を研究されてこられた方への聞き取り調査を実施する予定です。そのほか、資料編「近現代2」に向けて、八王子市郷土資料館にある歴史資料や、市内の個人や諸機関、団体でお持ちになっている歴史資料の調査をすすめていきます。

また戦前以来の新聞の八王子関係記事の目録作成などもすすめていきます。

主な活動情況 平成22年2月～5月 旧町村公文書の調査(八王子市と合併した各町村分) / 橋本義夫氏関係資料の整理及び調査 / 八王子市郷土資料館収蔵史料調査 / 加住地区史料所在調査

自然部会(畔上能力部会長)

今後の予定 自然部会のなかにはいろいろな分野がありますが、植物・鳥類・哺乳類・昆虫など主に生物の分野において具体的な調査を行い、本編「自然」や報告書をまとめるための様々なデータを揃えていきたいと思えます。また、並行して本編「自然」の目次作成や頁の割り振りなど、刊行（平成25年度予定）に向けた準備を行っていきます。

主な課題 生息調査で採集された植物・昆虫類等は貴重な資料となります。標本化作業をどのように進めていくか、また管理体制や今後の活用方法などの検討が課題となっています。

主な活動情況 平成22年2月～ 鳥類の文献による分布調査、野生動物の生息調査（痕跡調査・目撃に関する聞き取り調査）（以上継続）、昆虫の標本調査（旧高尾自然科学博物館、東京大学博物館など） / 平成22年4月～ 昆虫の生息調査、植物の分布調査、本編目次案の検討（以上継続）

民俗部会(小川直之部会長)

今後の予定と編さん方法 平成28年度の本編「民俗」刊行に向け、市域の民俗に関してテーマ別調査、地区別調査、従来の研究資料の収集と調査、写真資料の収集と調査、の4つに取り組んでおります。は八王子の民俗的な特色をとらえるための調査、は地区ごとの民俗の全体像をとらえる調査、は従来の研究蓄積を活かすための調査、は市民生活に写された画像資料の有効活用のための調査です。

は平成21年度から始め、は22年度から市域を山地・丘陵地域、台地・沖積地地域、旧市街地域の3つに区分し、5地区を選んで調査をすすめます。これらの成果は、本編「民俗」に先立ち「報告書」などとして刊行する計画を立てています。

市域に伝えられている民俗を精確にとらえ、八王子の民俗がもつ特色を明らかにしていくのが本編「民俗」の目的ですので、市民の方々から民俗の聞き書き、行事や祭り、民具などを実際に見せていただきながら編さんをすすめていきます。八王子の民俗理解には、暮らしぶりや行事、祭りなどが写された写真も欠かせませんので、古い写真をおもちの方々に情報や資料提供をお願いしています。また、かつての生活のありさまや行事などの記録をおもちの方からも情報や資料のご教示をお願いしています。

民俗部会で定期的に部会を開催し、調査の進展や八王子の民俗的特色についての検討を行っています。これらの具体的内容については、市史研究なども利用しながら随時公開していく予定です。

主な活動情況 平成22年2月～ 稲荷講調査（鑓水）、初午調査（大楽寺町、大谷町、元本郷町）、高尾山の伽藍関係文献調査（たましん歴史資料室）、八王子市郷土資料館収蔵機織用具調査（継続） / 3月～ 八王子市域の民俗関係文献調査（成城大学民俗学研究所）、八王子市郷土資料館収蔵写真資料調査（継続）、生業調査（本町、東中野、元本郷町、上恩方町、鑓水）、八王子の祭礼・年中行事に関する文献調査（国立国会図書館、都立中央図書館） / 4月～ 普門寺境内飯縄神社調査（相模原市緑区中沢）、年中行事・地名関係調査（上恩方町）、上宿御嶽神社百八灯調査（下恩方町）、旧恩方村役場文書調査、民謡調査（上恩方町） / 5月～ 太子講調査（元本郷町善能寺）、生業調査（本町）

資料編「原始・古代」の刊行準備中

原始・古代部会専門調査員 黒田智章

現在、八王子市は人口55万人を超え、東京のベッドタウンとして多くの人々が暮らす多摩地域の中核都市となっています。政令指定都市・中核市・特例市のいずれにも属さない市としては、日本一の人口です。

八王子に多くの人々が暮らしていたのは、現代ばかりではありません。原始・古代においても大規模な集落がいくつも存在したことが、長年にわたる発掘調査によって明らかになってきています。縄文時代の櫛田遺跡、弥生時代の神谷原遺跡、古墳時代の中田遺跡、奈良・平安時代の船田遺跡など、それぞれの時代ごとに大きなムラがありました。また、集落だけでなく、有力者を埋葬した古墳や、大量の土器を生産した窯跡群など、さまざまな遺跡が八王子では発見されています。八王子市内で確認されている遺跡は、その数1,000か所以上にも上っています。

これらの遺跡の発掘調査の成果は「発掘調査報告書」として調査終了後に刊行されており、図書館などで閲覧することができます。

しかし、この「発掘調査報告書」は非常に専門的な内容となっていて、一般の皆さんが読もうとしても難解でわかりづらいものとなっています。

いま、私たち原始・古代部会が作成をすすめている資料編「原始・古代」は、この「発掘調査報告書」の内容をわかりやすくまとめ、市民の皆さんに紹介する「遺跡カタログ」を目指しています。調査で見つかった竪穴住居跡などの遺構や、出土した土器などの遺物の写真を多数掲載し、読んで見て楽しめる本にしたいと考えています。

現在の進行状況としては、各遺跡の発掘調査報告書の内容を詳しく検討しながら行われた、資料編「原始・古代」に掲載する遺跡の選定作業が完了し、各委員による原稿執筆がスタートしました。またこれに並行して、実際にそれぞれの遺跡を歩いて地形や景観を観察したり、地元の研究者の方や地域住民のみなさんのお話をうかがったりなどして、より豊かな内容にすべくイメージを膨らませる努力も行っています。

八王子には3万年前の旧石器時代から人々が暮らしてきました。ただ、ここには巨大な古墳や地方の役所である国府のようなものは造られず、古代に中央の史書に記されるような重大な歴史的イベントも起こらなかったと見られています。

しかしこの地には、現在の私たちと同じ、普通の人々の普通の暮らしがありました。原始時代や古代のムラで、人々が働いて食べて寝て、泣いて笑って日々を暮らし、人生を送ってきた、その延長線上に今の私たちの日常もあるのだと、膨大な報告書や論文を読みながら、ふと思ったりしました。

資料編「原始・古代」は、そんな大昔に暮らした「ご近所さん」の日常風景を、読んだ方々に想像して頂けるような本にできればと思っており、刊行は平成23年度を予定しています。

(くろだ ともあき・青山学院大学大学院生)



原始・古代部会、作業中

八王子市都市政策研究所が発足しました 都市政策研究所専任研究員 三谷清人

今年4月、八王子市に元気な産声を上げた組織があります。

八王子市都市政策研究所。市が特色ある有効な政策を打ち出すため、政策審議室内に設置した自治体シンクタンクです。その特徴は、多摩地域で初めて常勤職員を専任の研究員として配置した点にあると言えるでしょう。市を取り巻く社会情勢や経済環境は今、大きな変化の時を迎えています。こうした状況に対してよりの確かつ具体的な政策提言を行い、時には「市政の水先案内人」としての、時には「庁内外の知恵袋」としての役割を果たすため、所長、副所長、4名の常勤職員、そして非常勤の専門研究員を含めた7名が、アドバイザーである学識経験者等の助言を受けつつ調査・研究を行っています。

都市政策研究所のルーツは、平成15年に設立された「八王子市都市政策研究会議」にあります。「地方分権の進展や社会情勢の急激な変化にあたり、新たな時代に対応する先駆的政策や施策を広く調査研究し、その具体化を図る」ことを目的に、市長の私的諮問機関として設置された八王子市都市政策研究会議は、調査研究に基づく市長への政策提言や、成果報告会の開催などを通じて、研究成果の発信・活用・実現を果たしてきました。

研究会議が年に1回のペースで発行してきた機関誌『まちづくり研究はちおうじ』には、その足跡がくっきりと刻まれています。平成16年に発行された創刊号では、地方分権や少子化といった今に通じるトピックが取り上げられていますし、平成18年発行の第3号には「研究会議」から「研究所」への進化を提言する論文が掲載されています。また、平成21年発行の第6号においては、公文書管理の意義や八王子市における公文書等の管理・活用方法が論じられ、公文書館の設立が提言されています。この研究は、「公文書等の管理・活用」という当面の重要課題への対応策を、「公文書館の設立」という中長期的な構想につなげる形で展開したもので、市ではすでにこれに沿った検討会を立ち上げました。そうした地道な調査・研究活動の積み重ねこそが、都市政策研究所の設立につながったといえます。

今後、都市政策研究所で研究していくテーマは、中長期的なものから差し迫った課題まで多岐にわたります。しかし、そのいずれにも共通するのは「現場に行って、自分の目や耳で確かめる」ことの大切さではないでしょうか。研究を机上で完結させるのではなく、現場に足を運んでさまざまな方に話を聞き、自分の目で見ることによって、成果としての政策提言がより具体的で市民目線のものになると考えています。また、それに加えて各所管との意見交換も積極的に行っていきます。「オール八王子市」として政策課題に取り組みれば、政策や施策の実効性

が高まることでしょう。もちろん、『まちづくり研究はちおうじ』もこれまでどおり発行します。この機関誌は、市民の皆さんと学識経験者、職員が集う「政策研究の交流拠点」と位置づけていますので、さまざまな方からの投稿をお待ちしています。

市内の水田では田植えも終わり、早苗が初夏の爽やかな風にそよぐ景色が見られるようになりました。都市政策研究所も確固たる成果への決意を抱きつつ、夏に向けて走り出します。

(みたに きよと)



黒須市長(前列中央)を囲む都市政策研究所のメンバーと政策審議室主幹

よろしくお願ひします 市史編さん室職員を紹介

現在、市史編さん室では11人の職員が働いています。それに加えて、資料整理では市民グループで古文書を学んできた臨時職員が、力を発揮しています。出身地や経歴もさまざまな、20代から70代までの老若男女が集まり、「WE LOVE HACHIOJI」を合言葉に日々地域の歴史・自然・民俗を明らかにしようと努力しています。資料を求めて、市民の皆さまのお宅へお伺いすることもございますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

以下「WE LOVE HACHIOJI」の気持ちにあふれる職員を紹介します。

【佐藤 広(室長)】八王子市郊外の出身で、郷土資料館、文化財課を経て現職。先人の方々の研究とこれからの研究、大学や企業を含む市民と行政、諸先輩と若者が絆を結んでスムーズにバトンを交換し合えるよう、チームワークを大切に編さんにのぞんでいます。後世に資料を残し、歴史や伝統文化をまちづくりに活かしたいと思っています。

【新井 雅人(主幹)】八王子とは歴史的にもつながりの深い群馬県桐生市の出身です。大学入学と同時に八王子市内に引越し、今では八王子在住年数のほうが長くなりました。第二の故郷八王子のため、市史編さん事業の推進に力を尽くしたいと思います。

【長谷部 晃一(主査)】八王子市役所に入所し16年経ち、この度、4月に新しく主査として市史編さんに携わることになりました。市民の皆さまの視点に立って、より解かりやすく、市民の皆さまに末永く愛されるような市史を創っていきたいと思います。

【福田 美和子(主任)】市制100周年記念事業として新たな市史を編さんする事業に携われることを、とても幸せに感じながら毎日仕事をしております。調査に必要な物品の購入やさまざまな支払いといった、庶務的な業務を担当しております。

【渡部 恵一(主事)】福島県原町市及び南相馬市で、博物館や市史編さん室に4年間勤務した後、郷里の八王子市役所に入所し市史編さん室に配属されました。現在は庶務の担当ですが、今後は市史編さん経験者としての専門性を発揮したいと考えています。皆さまから色々と学ばせていただきながら、有意義な市史を創るために励んでいます。

【馬場 有美(市史編さん専門員)】群馬県の博物館で展示解説員として3年間勤めました。ここでは、来館者に展示内容をより深く理解していただくためにガイドツアーの案内役や、子ども向け参加型講座の指導などを行いました。この経験を活かして読者の立場に立った親しみやすい市史の刊行をめざしたいと思います。現在出産休暇中ですが、8月に復職します。

(原始・古代部会担当)

【堀内 美香(馬場専門員の代替職員です)】大学では日本史(中世史)を専攻していました。八王子のたくさんの遺跡や歴史について学ぶことができ、市史編さんに携われたことを嬉しく思っています。

【柳沢 誠（市史編さん専門員）】八王子市には大学入学以来、10年余り関わりをもたせていただいております。次第に市内各所へ伺う機会が増え、地区ごとの多様な姿と歴史の深さを味わわせていただいております。今はより多くの新しい発見と、内外を問わない地域間のつながりを見出すのをたのしみながら、八王子の中世をえぐり出していくのが何よりの喜びです。

（中世部会担当）

【大木 悠佑（市史編さん専門員）】6月に着任いたしました。出身地（大阪府枚方市）と似た雰囲気（人口の規模、近世の宿場町など）をもつ八王子をもっと知りたいと思っています。地域にはまだまだその地域の歴史を語る資料が多く残っています。そうした資料の保存・活用を通じて、地域の歴史を再発見・再確認する作業を市民の皆さまと共に行いたいと思います。

（近世部会担当）

【中村 元（市史編さん専門員）】八王子市出身です。近年個人的にも1920～40年代の八王子市の政治と社会の歴史を調べていた関係で、市史編さん事業に関わりたいと思いました。従来あまり知られていない歴史資料の調査や整理を通じて、八王子の近現代に関する新たなイメージを打ち出すお手伝いできれば、と考えています。

（近現代部会担当）

【佐藤 千枝（市史編さん専門員）】4月に着任いたしました。これまで大学の研究室で地域の歴史と自然環境を活かしたまちづくりを学んでおりました。当時より八王子市内の湧水や水路など水景の素晴らしさに惹かれて研究対象地としておりましたので、現在こうして市史編さんに携わっておりますことをとても嬉しく思っています。

（自然部会担当）

【松尾 あずさ（市史編さん専門員）】国立市生まれで調布市育ちの多摩っ子です。八王子車



事務局職員（馬場は、お休み中です）

人形など八王子の伝統芸能の方々と10年ほど前からお付き合いいただいております。八王子の伝統文化は多様性があって興味深く、市史編さん室で働いてみたいと思いました。市民の伝統的な生活文化を記録し残すことに努め、文字にされることのなかった民俗から八王子を再考したいと思います。

（民俗部会担当）

《平成22年3月末日の退職者》

次の職員は3月末日をもって退職し、公官庁や大学に転出しました。在職中はお世話になりました。白石烈 押田佳子

市史編さんのあゆみ - 平成22年2月1日から平成22年5月31日まで

平成22年

- 2月15日 自然部会平成21年度第4回部会会議を開催
- 21日 中世部会平成21年度第5回実踏調査
- 22日 原始・古代部会平成21年度第7回部会会議を開催
- 23日 自然部会旧高尾自然科学博物館標本資料調査
- 26日 市史編さん室・学習支援課共催「市民講座」(全4回)を開催
- 3月 7日 平成21年度第5回市史編集委員会を開催
- 10日 稲荷山通信第4号発行(2,000部)
- 12日 自然部会平成21年度第1回植物分野会議を開催
- 21日 原始・古代部会平成21年度第2回実踏調査
- 28日 中世部会平成21年度第3回部会会議・第6回実踏調査
民俗部会平成21年度第6回部会会議を開催
- 30日 近現代部会八王子市郷土資料館所蔵資料調査
- 4月 1日 近世部会平成22年度第1回部会会議を開催
- 5日 原始・古代部会平成22年度第1回部会会議を開催
- 9日 自然部会平成22年度第1回植物分野会議を開催
- 24日 中世部会平成22年度第1回部会会議を開催
- 25日 民俗部会平成22年度第1回部会会議を開催
- 5月 10日 原始・古代部会第2回部会会議を開催
- 16日 中世部会平成22年度第1回実踏調査
- 18日 自然部会平成22年度第1回部会会議を開催

受贈図書・資料 - 平成22年2月1日から平成22年5月31日まで

多くの方々から、図書や資料をご寄贈いただきました。御芳名を記し、謝意を表します。

【個人など】 畔上能力 稲田徹元 尾崎つる子 小沢住朝 金井ゆき子 車田勝彦
小山祐三* 小山幸夫 坂本勲* 鹿戸衡 菅井憲一 平賢次郎* 高澤寿民
萩原拓己 橋本岩雄 林宏一 菱山忠三郎 廣澤隆之 深澤靖幸 藤田覚
藤本宗信 光石知恵子 峰岸純夫 村野圭市 山辺恵巳子 吉沢守* 渡部恵一
(敬称略・50音順。*を付した方は平成22年1月31日以前にご寄贈いただきました。)

【公的機関】 東京都公文書館 沼津市教育委員会文化振興課市史編さん係
学習院大学大学院人文科学研究科アーカイブズ専攻 宇治市歴史資料館
可児市教育委員会市史編纂室 寒川文書館 町田市立自由民権資料館
相模原市立博物館市史編さん班 小平市企画政策部市史編さん担当
豊島区立郷土資料館 札幌市総務局行政部文化資料室 小田原市立図書館
横須賀市総務部総務課市史編さん担当 長岡市立中央図書館文書資料室
熊谷市教育委員会社会教育課市史編さん室 日野市環境情報センター
(財)たましん地域文化財団歴史資料室 仙台市博物館市史編さん室

歴史の窓⑤

信太森の狐～西川古柳座の「世間話」～

市史編さん専門員 松尾あずさ

八王子市下恩方町の西川古柳座は、東京都指定無形文化財の八王子車人形を伝えており、その活躍は日本に留まらず海外でも好評を博している。八王子車人形の演目の一つに「信太妻(しのだづま)」がある。これは、安倍保名(あべのやすな)が信太森の白狐と結婚し、後に有力な陰陽師となる安倍晴明が生まれるが、白狐は正体を保名に知られてしまうと信太森へ帰っていく、という話である。

その上演にからんだ不思議な話を、筆者は西川柳峰氏(四代目西川古柳、大正11年<1922>～平成12年<2000>)より平成10年にうかがったことがある。

その話というのは、昭和63年ころに「信太妻」を、その話が舞台になった大阪府和泉市の信太森葛葉稲荷神社近くの会館で上演し八王子に帰ってきたところ、稽古場の神棚の下に白い毛の塊が落ちており、それは犬の毛とは明らかに異なるので、きっと信太森の狐の毛だろうと思い、毛の塊を神棚にあげた、というものである。

柳峰氏の奥さまである瀬沼恭子氏もその毛の塊をみており、犬が稽古場に入った様子はなく、ちょうどそのころ柳峰氏は大阪の文楽との交流があったので、信太森の狐がついてきてしまったのかと思ったとのことであった。

柳峰氏の長男である五代目西川古柳氏は毛の塊が見つかったときには海外滞在中であったが、帰国後に毛の塊を見せられると、血がついた皮もあったという。

次男の柳時氏は、その毛の塊は犬のものとは異なりフワフワとして密度が濃く、尻尾のような形であったという。柳峰氏が毎日のように掃除をしていたので神棚から落ちた埃とも思えず、信太森の狐の毛の塊だと思うが不思議なことがあるものだと思った、とのことであった。



西川柳峰氏(西川古柳座提供)

西川古柳座に伝わるこの世間話の面白さは、まず、日常生活の場にいる狐ではなく伝統人形芝居の演目に登場する信太森の狐のこととされていることである。そして、これは近年の話であり、伝承の母体が、若者もいて洋舞などの新作も手がけ、世界的に活動している伝統人形芝居の一座である八王子車人形 西川古柳座で、今もなお古くからの伝統を新たなかたちで再生産していることに私は驚きを隠せなかった。

このように、怪異・霊異など人々の興味をひく話を民俗学では「世間話」とよぶ。似たものに「とんと昔」な

どから語り始められ「それで一期満々(いちごまんまん)栄えた」などで語り終わられる「昔話」、具体的な人や場所にまつわる話で、その内容を信じている人がいる「伝説」があり、いずれもこうした無形のものも民俗学の対象であり、市史編さんの資料ともなる。ぜひ、市民の皆様の「世間話」も教えていただきたい。(まつお あずさ)

参考文献：はちおうじ車人形研究会『東京に残る江戸・人形芝居の世界 八王子車人形』1996年 のんぶる舎